

秋田 昌子 氏 感性とコラボレーション研究会（元墨田区職員）

「いのちの大切さを考える」

～老いと、人間と、いのちと向き合い 自分に出会う～

1. 経 過

墨田区立墨田中学校のふれあい学習「おばあちゃんの介護を通して人と人のふれあい、思いの交換」（平成8年6月）を初回に、小・中学校等にて、児童、生徒、保護者、教員等の方々に、写真を交えた実話を150回（平成29年12月現在）実施。

2. ねらい

- (1) 「いのちの大切さ」を理解し、自他の生命を尊重し、生きることの喜びを感じる。
- (2) 人間を理解し「いのちと向き合う」体験を通して、自分の存在を認めながら生きていくことの大切さを学ぶ。
- (3) 多様な価値観に出会い、人と人がかかわり響き合うことの豊かさと醍醐味を学ぶ。

3. 内 容

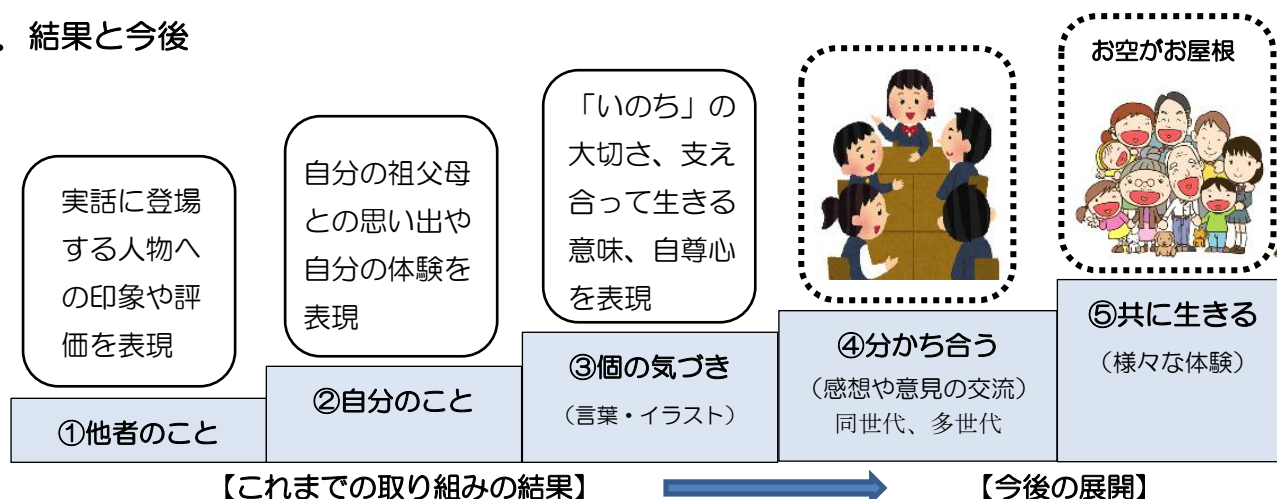
実話 「トラさんが生きて！みんなも生きて！」

100歳のおばあちゃんの在宅介護から看取りまでの家族の心の葛藤や本音、おばあちゃんとふれあう子供の様子など、写真を交えながら伝え、老いと、人間と、いのちと向き合うプロセスを通して「いのちの大切さ」に気付く意識の変化をありのまま話す。



事前打合せ → 事前アンケート → 授業 → 事後「感想文」 → 事後評価・反省

4. 結果と今後



「介護も子育ても同じだった」（保護者）、「介護も子どもの指導も同じだった」（教員）という感想があり「いのちを大切に作る心を育てる」ことは、世代を越えたテーマとなる。

5. もう一つの学び

- (1) 伝えることを通して、感動や学び、やりがいや生きがいを得る。
- (2) 学校と地域がつながることで、豊かに育ち合う環境が育まれる。